

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470300795
法人名	社会福祉法人 伊勢湾福祉会
事業所名	グループホーム 白子マリン
所在地 (電話番号)	鈴鹿市白子3丁目8番8号 (電話) 059-380-5777
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 12 月 12 日(水)

## 【情報提供票より】 (H19年11月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 8 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 3.6人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100円		

### (4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	1 名	要介護4		2 名	
要介護5	2 名	要支援2		名	
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳		最高 101 歳	

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	西城外科 内科
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内で介護福祉施設、ケアハウス等幅広く事業展開されている法人の運営で近鉄白子駅近くの街中に立地したデイサービスと併設の事業所である。事業所は食堂を中央に周りに玄関、ロビー、居室、トイレ、洗面所、浴室、台所等を配し、職員の目が行き届きやすいように配慮されており、職員の明るい話し掛けの聞こえる和やかな雰囲気が視える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価改善項目(便りの発行、玄関周り、ヒヤリハット記録の整備等)は管理者、職員の話し合いにより取り組まれているが地域住民との支え合いは今後の課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は運営者の理解のもと、管理者を中心に職員が参画して纏められている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	本年6月に第1回目を開催し、11月には第4回目が開催されている。地区の民生委員、地域包括支援センター職員、利用者及び家族代表、法人の統括主任及び管理者をメンバーに現況報告、外部評価改善内容、地域との交流促進などについて話し合われている。地域住民の理解と支援を得るための意見交換をより促進されサービス向上に資することを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書にホーム苦情受付担当者・ホーム外相談機関を明記している。来所時に気さくに意見や要望を言ってもらえるよう気配りしている。寄せられた意見苦情は職員の意見及び処置結果を含め管理者が受け止めるようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者共々併設デイサービスの行事に参加したり、地元保育園との交流を図ったりしている。又、運営推進会議にて地域との交流のあり方について検討しているが、事業所として自治会への加入等により、職員が地域行事、活動等へ参加する機会を作り地元住民の理解を深める努力が期待される。

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざした事業所であると共に家庭的な環境の下その人らしい生活が送れるよう支援していくことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示し管理者は理解しているが、職員の入れ替わりもあり全職員の取り組みは今後の課題である。	○	地域とのかかわりを含め、理念の実践について日常の会議、ミーティング等で話し合われることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者共々併設デイサービスの行事に参加したり、地元保育園との交流を図ったりしている。又、運営推進会議にて地域との交流のあり方について検討している。	○	事業所として自治会への加入等により、職員が地域行事、活動等へ参加する機会を作り地元住民の理解を深める努力を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は運営者の理解のもと、管理者、職員が参画してまとられている。また、前回の外部評価改善項目(便りの発行、玄関周り、ヒヤリハット記録の整備等)は管理者、職員の話し合いにより取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年6月に第1回目を開催し、11月には第4回目が開催されている。地区の民生委員、地域包括支援センター職員、利用者及び家族代表、法人の統括主任及び管理者をメンバーに現況報告、外部評価改善内容、地域との交流促進などについて話し合われている。	○	自治会代表者や市の担当者のメンバー参加を要請し、地域住民の理解と支援を得るための意見交換をより促進してサービス向上に資することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月介護相談員の来訪がある。また、地域包括支援センターとは随時相談問い合わせ等行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとに、毎月書面にて暮らしぶりや、健康状態を、また金銭出納簿の写しを添付し報告している。また、2ヵ月ごとの家族会で経過報告、金銭出納簿の確認(印)を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム苦情受付担当者・ホーム外相談機関を明記している。来所時に気さくに意見や要望を言ってもらえるよう気配りしている。寄せられた意見苦情は職員の意見及び処置結果を含め管理者が受け止めるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が利用者全員と馴染みの関係を保つよう努めていると共に、異動後も顔出しをし利用者との係わりを持つようになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として採用時教育や年間教育計画があり、毎月第3木曜日に事業所の職員が参加している。また、外部の講習会等に適宜参加している。それらの研修内容は毎月の所内会議で周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内他事業所と交流するほか、鈴鹿地区連絡協議会への法人のグループホーム統括主任の参加報告を受けサービス向上に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスの利用や、家族、本人の見学により、慣れ親しみ安心感を持って利用できる雰囲気を理解してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器片付け、洗濯物干し、縫い物等で本人のできる能力をみだし和気あいあいとした雰囲気共同している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのアセスメント記録や日々の暮らしから生活歴や経験を知るように努め、家族共々対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時や家族会で出された家族の意見や、職員の日々の申し送り、会議での意見交換をもとに日々の課題を探り出し介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行い、家族の同意を得ている。利用者の状態に応じては本人、家族及び職員等の意見をもとに随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	原則的にはグループホーム本来のサービス提供のみであるが、家族の状況に応じて通院は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医(毎週往診あり)の他、利用前からのかかりつけ医で診療を受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時は主治医の指示を受け対応することで家族の理解を得ているが、一人利用者が重度化しており、看護師を交え支援方針を話し合っている。	○	ターミナルケアを含め利用開始時からの対応指針を定め、事業所としての方針を明確にされることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や勉強会でトイレや入浴介助等での言葉掛け、気配り及び記録類の収納などプライバシー保護の具体的な項目について意識の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが、一人ひとりの体調、精神面を把握し、その時々々の本人の気持ちを尊重して対処している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士の献立を下に委託業者より配達される食事(時には季節的な配慮もある)の配膳、下膳、食器拭きは利用者も共におこなっている。また、職員も同じテーブルを囲み和やかな雰囲気ですべてしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日(10時～15時)沸かしているが2日/週・人の入浴で曜日と時間帯も決めている。今のところ希望はないが、日数、時間帯等の希望があれば個々に検討可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き当番、洗濯物干し、たたみ、縫い物等で経験や知恵を発揮してもらい、一人ひとりが主役となる場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	階下の物干し場へ出たり、近隣への散歩やコンビニへの買物に出掛けたりしている。時には車で駅前のスーパーまで出掛けたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は内鍵で、また、玄関の出入り口は日中は無施錠である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携した消火・通報・避難訓練と夜間を想定した避難誘導訓練を職員と利用者共々参加して実施している。	○	今後、自治会行事への参加等を通じて地域住民の理解と協力が得られるよう、早急に検討実施されることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部の管理栄養士の献立でバランスのとれた食事である。事業所では個々の嚥下や咀嚼の状態に合わせて盛り合わせている。又、一人ひとりの食事摂取量はバイタルチェック表に、水分量は業務日誌に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居室、台所、浴室、トイレ、洗面台、職員室を周りに配した食堂は広々として、壁には季節感のある手作りカレンダーが掲示され、ロビー部分はゆったりしたソファを並べ、くつろげる雰囲気と行動しやすい工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたベッド、置き棚、飾り物、日用品等持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		